

道退教 檜山支部だより

2016. 11. 10
第 65 号
支部長 福原賢規
事務局 江差町南ヶ丘・金子 52-5149

許さない！強行「採決」？

11月4日、与党自民・公明はTPP特別委員会にて協定承認案と関連した法案を強行「採決」しました。TPP問題では説明・解明・解決すべき問題がまだまだたくさんあり、実のところ審議はこれからというところでした。問題を探ってみます。



特別委員会までつくつてのTPP審議にどんな問題があったのでしょうか。

皆さんご存知と思いますが少し考えあつてみましょう。

国会制民主主義の破壊

本会議開催の議会議事運営委員会の断続的開催中、本会議日程が決まっていたのに特別委員会を開催強行。国会規則を破って「衆院環太平洋連携協定(TPP)特別委員会を開催。その上での強行採決。民主主義破壊そのものです。

担当山本農水相の資質問題

山本農水相は、立法院に「強行採決」をけしかけ(後に陳謝取消し)、他所でその発言を「冗談」言つて「クビになりそうになった」と発言。行政府の大臣が立法院に「慎重審議」ならぬ「強行採決」発言は「冗談」でなく、大臣の資格・資質がないことを曝しました。しかも、陳謝の中で「皆さんが納得いただけるまでご審議を頂戴したい。」と誓約。

国会審議の前提はどうか

協定関連文書の和約は3分の1以下

協定関連文書は8400ページもあるのに和約されているのは2400ページ、全文書と訳し国会に提出すべきです。

交渉経過文書は黒塗り

交渉経過について提出された文書は日付と表題のみで中身はすべて黒塗り、核心に迫る質問には守秘義務をタテに回答拒否し、甘利前大臣も説明責任を放棄しています。

情報開示しないで本格審議はできない

本格審議はこれから

国民の7割から慎重審議が求められています。テーマごとの審議、参考人質疑、中央公聴会などこれからです。情報をきちんと開示した審議をするには、国民の負託を受けた国会の審議の大前提です。

金容解明は国会の責務

TPP交渉前に国会は農産物重要5品目を「聖域」として決議、果たしてその決議は守られているのか、「交渉対象からコメを外すよう求めたのか」と島山議員(共産党)の質問に、安倍首相は「いちいちのやり取りの発言は控える」と交渉の事実関係に応えませんでした。

収集した情報は国民と国会に提供する

国会決議では、交渉で収集した情報は速やかに国会に報告し、国民に情報開示するとしています。黒塗りや全文和訳せずは、あり得ないことで、この点でも決議違反です。

国民の暮らし犠牲に

多国籍企業と米国の利益優先

重要農産物5項目の3割で関税撤廃、7割も関税引き下げ無償なものはありません。その上、協定発効7年後には再協議が、国会決議違反は明らかです。

「食の安全」が遺伝子組み換え作物輸入で脅かされるし、表示も自由競争と撤廃もあらゆる分野が規制緩和

「国民皆保険制度」が崩される。

米国製薬会社が薬価決定に影響助け合いの「共済」制度も破壊される

輸入米は国産米より2割安乳価が落ち酪農ガタガタ

憲法通り、国会は国権の最高機関!

《追悼》

「故・長崎

潔先生」を偲んで

【故・長崎潔先生】の御霊に、お別れの言葉を申し述べる事は、大変辛くて残念至極ではありますが、これも世の定め、衷心より哀悼の誠を捧げます。

今は只、【故・長崎潔先生】を祈るのみであります。先生は、去る9月4日、天寿を全うされ、尊い命の灯を消し、往生の素懐を遂げました。

振り返ってみると、先生とは、唯単に、教員仲間と云うだけではなく、昭和30年代のメジャースポーツであった、『陸上競技』や『野球』等の係わりで、半世紀を越す付き合いを続けさせて頂きました。

若い頃の先生は、知る人ぞ知る有能なスポーツマンで『陸上競技』や『野球』に秀でて『北海道教職員野球大会』や『北海道教職員ソフトボール大会』では「檜山教職員代表チーム」の、有力メンバーの一員として出場を果たしました。



道教互南部会研修参加のご夫妻

私と先生との間には、言葉では言い尽くせない程の思い出が詰まっているが、取り分け、上ノ国小学校時代の長崎先生は、「忍耐強い教頭先生」であったとの印象が、強烈に残っております。

平成10年に定年退職された先生は、【上ノ国大留】に新居を構え、私共の囲碁クラブに入会し、毎週開催の研鑽会に参画し、熱心に烏鷺の手段を試みていた姿が、脳裏に焼きついてます。

当時、私が町内会の仕事をしていた関係で、先生を逸早く囲い込み「町内会役員」委嘱したり、「児童・民

思い多き道教互南部会
訪問した小樽ワイナリー前で



生委員」に推薦したりして、大変ご苦勞を掛けたが、熱心に取り組んで頂いた事に、改めて感謝を申し上げます。後に、先生が「上ノ国町・児童・民生委員協議会の会長」に就任されたことを知り、家内共々喜んでいたところでありました。

漏れ聞く情報によると、昨年度の「檜山管内民生委員協議会の会長ポスト」が

上ノ国町で引き受ける路線が敷かれていたとの事で、更なるご活躍を期待していただだけに、惜しまれてなりません。

このように、広い分野で活躍していた先生でしたが、昨年4月中頃から、囲碁クラブの研鑽会にも顔を出さなくなり、仲間内ではどうしたものかと心配していました。

そんな中、昨年5月中旬の或る日、「民生委員の仕事も、〇期も〇期も勤めさせて頂いたのですが、『最近めつきり根気が無くなり』『職務を全うする自信が無くなりました。』従って、「任期途中」でありますが、現在引き受けている役職を辞退することになりました。」

「ついては、折角推薦して頂きながら、役職を任期途中で投げ出して、期待に

応えられず誠に申し訳ありません。」との電話があったのです。

何年か前に、推挙されて役職に就任した事を、まるで昨日の事のように胸に秘めて、「任期途中で辞任する事の非礼」を詫びていたのです。

これぞ、長崎潔先生の人柄を如実に表した言動なのです。

何という『誠実さ』・『謙虚さ』でありましょう。

前の月までは、囲碁クラブの研鑽会等の集まりには、特段変わった様子も無く参画していたので、まるで、狐につままれたような感じで、何がどうなったのかと、大変驚き心配もしました。

程なく、先生が『検査入院』したとの情報を耳にしたのですが、その後の先生の動静は、杳として分からずじまいでした。

早期回復を目指し、『他言無用』と最善の手段を講じた結果でありましょうから、私も『先生囲碁に来るかい？』とか『先生元気？』等々の詮索も、敢えてしませんでした。

退職後十数年を経て『悠

々自適』・『順風満帆』と思われていた長崎先生の身辺に、密かに病魔が忍び寄っていたのでありましょう。

今春4月、入院先の道立江差病院で、健康体を取り戻すべく一心に療養に励み、暫くの間は親しい友との接触も断ち、熾烈を極めた闘病生活を続けていたとの事でありましたが、『病魔』は、余りにも「理不尽」であり、しかも「無常」なものでした。

先生の、生への努力や思いを無視して、命を繋ぐ一切の妥協も許さずに、たった一つの、尊い命を奪い去ったのであります。

【故・長崎潔様】、78年間に亘って繰り広げられた人生行路に、終焉を告げたのであります。

現世では、【故・長崎潔先生】の「姿・形」は見えずとも、ご家族お一人おひとりの心の中に、酌めども尽きせぬ幾百幾千もの思い出をを残し、より強靱な絆で結ばれたのであります。

残されたご家族は、【先生のご遺徳を心の糧】とし、或いは【魂の拠りどころ】として『先生を守り』・『先

生に守られながら』、永遠に亘って長崎家を守り、支え続けて行く事でありましょう。

物の本(仏教)によると、人(故人)が冥土を旅して辿り着く先は、【六道】・天界・人間界・修羅界・畜生界・餓鬼界・地獄界」と言われ、人(故人)それぞれであると説いています。

【故・長崎潔様】が【辿り着く冥途の終着駅】は、先生が現世で残された【数々のご遺徳】の実績により、【七七日・即ち四十九日目】に、【太山王が決する】と言われています。

【故・長崎潔先生】が冥土を旅して辿り着く先は、【六道最上区分界・天界】であることを信じて疑いません。

私は今、改めて『七字のお題目』・『南無妙法蓮華經』を唱え、【故・長崎潔様】が【天界Ⅱ極楽浄土】に成仏されることを衷心より念じて、哀悼の言葉と致します。

合掌
平成28年10月22日
上ノ国町字大留
久末千里

《追悼》

惜しまれるあなた 寂しく悲しい別れ

今年、初春から悲しい別れが続き、8月からは3人もの大切な方々とお別れすることとなりました。1・2面でも

追悼文を掲載していますが、忙しい中、3人の方に追悼の言葉をいただきましたので掲載しご紹介します。

お別れの言葉

小林勝行先生のご霊前に、謹んで哀悼の誠を捧げます。

22日は台風の影響でしよるか、江差の空も海も重たい鉛色に覆われ、朝から小雨が降りしきっております。

午後12時40分頃、突然電話がなり、受話器を取ると、奥様からの先生ご逝去の報告でした。

先生の病状が気になっていました私は、この報せだけはあつて欲しくないと念じ続けていたのに……。その瞬間、私は奈落の底に突き落とされた

ような衝撃を受け、一人愴然として涙流れ、込み上げてくる慟哭に耐えるのが精一杯でありました。

先生のご逝去は誠に痛恨の極みであります。

ふと、気がつけば「祇園精舎の鐘の聲、諸行無常の響きあり、沙羅双樹の花の色、盛者必衰の理を顕す」と呟いている自分がいました。

諸行無常は世の常として自分なりに理解していたつもりでしたが、敬愛する先生の急逝という冷厳な事実は、鉄槌をもってその真意を私に知らせて下さいました。

振り返ってみますと先生のご生涯は、桧山はもとより日本の教育の民主的な発展に心血を注がれた一生であったように思います。

桧山の地に生まれ、桧山で生き続けて来られた多くの人達に依拠し、その人たちの後ろ姿に学んで育ってこられた

子供たちに信頼を寄せ、温かく寄り添いながら、互いに誠実を胸に刻みあい、夢を語らい夢を育みあうという、正に壮大な教育ロマンそのものでありました。

そこには、教育の土着性と普遍性が貫かれていて、日本の教育の進むべき方向が明確に示されております。それは、先生の遺された数々の珠玉の実践記録が如実に物語っております。

先生のご逝去は教育界にとつて、また一つの大きな星が流れ去ったように思われ、誠に残念であり寂しい限りであります。

また教職をご勇退後、函館市に終の住処を定められ、悠々自適・含飴弄孫の穏やかな生活を描かれていたのにも関わらず、私の願いを聞き届けて下さり、上ノ国町教育委員会会の生涯学習アドバイザーにご就任下さり、各地域の生涯学習社会の構築のため、活躍され大きな成果をあげられました。また、陰になり日

向になつて私を支えて下さりました。本当に有り難うございました。只々、感謝あるのみであります。

また二人で酒を酌み交わす時、序章は豊かな実践に裏付けられた、高邁な教育論を展開開かれ、中章はスキーやゴルフ談議に花咲かせ、終章は蛮声を張り上げて寮歌を歌って散会するのが定番でありました。それができなくなるのがとても寂しいです。

先生、今宵の告別式も定番通り、同窓生の皆様と寮歌を歌ってお別れします。先生も一緒に歌ってください。先生の好きな二番の歌詞で歌います。

蝦夷興亡の歴史秘む
岬の灯火またたけば
彼の大島の影失せて
漁火淡く流れ行き
誰が歌うか追分の
哀歌に更くる北の海

小林勝行先生、いよいよお別れです。先生の御霊に哀悼

の誠を捧げ、御霊が永遠に安らかなることをお祈りし、追わかれの言葉といたします。

二〇一六年 八月二四日

上野秀勝



2013年10月25日
道任教桧山支部
「秋の交流会」で

加藤久美子先生に――

久美子先生、まさか先生のお写真を前にお別れの言葉を述べることになろうとは思いませんでした。

今この瞬間にも、きつと、最後にもう一度行きたいと言っていたバリ島に行っているに違いない、そのうちに家内の携帯が鳴り、「ちよっこし、今どこにいる?」、と懐かしい声が聞こえるに違いないと思っているのです。

久美子先生にはじめてお目にかかったのは、私が教職員組合の仕事で江差に来てからのことでした。先生は教職員組合の婦人部長、今で言う女性部長をしていました。

折から、婦人部が中心となり、檜山中のお母さんと女教師が手を取り合って、子育てと教育を語る「母と女教師の集い」(後の教育フォーラム)に取り組んでいました。その取り組みは、ちょうど今頃、林檎の赤く熟れる頃に本格化し、雪の降り始める頃に大きな「集い」を開くというものでした。

久美子先生は、毎日のように「集い」準備のために江差

の事務所にやってきました。

各町の小学校区ごとの小さな「集い」から中学校区の「集い」へ、そして町単位の「集い」へと広がっていくのですが、夜になるとそれぞれの町から

取り組みの報告があります。それを分析し、どの町へどんな支援をしたらよいか相談することになります。それは時には夜半にまで及びます。ところが、翌日、事務所に集まると、何とそこには久美子先生の手書きの「おたより」があるのです。私たちは、その度に驚かされたものでした。

勿論、翌日の学校にはしっかりと勤務しているのです。一体いつ書いたのだろう。あれから木間内に帰ったとしたら何時になっただろう、身体を害わさないだろうか、と心配したものでしたが、久美子先生の弱音を聴くことはありませんでした。

手書きの「おたより」を見る間に書き上げる、それは誰にもまねのできない久美子先生の得意ワザでした。

来る日も来る日も同じことが積み重なっていきます。それに歩調を合わせるように集

いの参加者が増えていくのです。1980年代の終わり頃に始まった取り組みですが、

90年代に入った第4回目以降、管内集会は、遂に1000人のお母さん方と先生方の集う大集会となりました。更にそれは、1022人(瀬棚集会)、1200人(大成集会)、1447人(上ノ国集会)、そして管内を一巡しての江差集会には1600人が集うまでになったのでした。

人口7万に満たない檜山で1000人も「集い」が成功する教育集会は前代未聞のことでした。

久美子先生は婦人部長「集い」の事務局長でしたから、いつも大集会のまとめでステージに立つことになりましたが、その日までの苦勞を見せることもなく、笑顔いっぱいに加者に語りかけていました。

初冬の候、何台ものバスを連ねてお母さん方と先生方が檜山中から開催町に向かう光景は後にも先にもない檜山の風物詩と称されるほどでした。

たくさんの先生方やお母さん方の苦勞の上に咲いた大輪の向日葵のような「集い」でしたが、その真ん中にいたのは紛れもなく久美子先生でした。

た。

「集い」のおかげだったと思うのですが、PTAの管内集会も400人、500人と膨らんで行きました。お母さん方のこぞつての声は、「母女(「集い」の略称)のような講師を呼んでほしい」と言うものでした。「いい話を聞いて、日頃の悩みを語り合うと、暫くの間だけでも優しい母でいられる」、と言う声さえ聞こえてくるほどでした。その声も久美子先生の笑顔に重なってきます。

また、そんな力があつたからこそ退職後に、年金者組合女性部、退職教職員の会の女性部のまとめ役として活躍できたのだと思います。

た日でした。

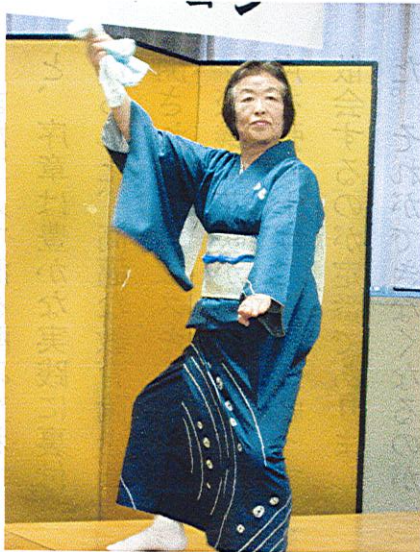
久美子先生は、退職まで2年を残していましたが、「1年で辞めるつもり」と漏らしていたそうです。

それを聞いた日から、私の大切な目標の一つは、いつも子どもに寄り添い、根気強く教え、子どもと一緒に悲しみ、一緒に泣く久美子先生の柔らかい心をもっと輝かせ、教職を全うしてもらうと言うことになりました。

とは言え、学校と地域を繋ぐカナメの久美子先生を、私は赴任したその日からアテにするのでした。地域の皆さんへのご挨拶の案内を頼み、子どもたちのお家のこと、更に先生方の持ち味まで教えてもらう始末でした。それだけではなく、ついつい、「あーでもない」「こうでもない」と言う始末……

そんなある日、久美子先生思いの養護の木村秀美先生と校務補の三上良子さんに、「校長先生は年上のお姉さん先生に厳しすぎませんか」と叱られてしまいました。

ついついとはいえ、その声にハッとさせられました。でもそのおかげか、久美子先生の一年残しの退職話はい



つしか立ち消えとなりました。

それどころか、トマトの有機栽培に情熱を燃やす、担任する子のお父さんに先生になつてもらい、仕事の苦勞と探究心、農業の魅力と素晴らしさを引き出すみごとに「授業づくり」をしたのでした。

それは、当時まだ青年教師だった中山晴生先生や渡邊洋一先生、工藤智子先生、南川真理先生たちへの何よりの教え、贈り物となりました。

後に、私は、教育雑誌への連載寄稿依頼を受けた時に、最終回にその久美子先生のみごとな教職の締めくくり方を紹介しました。久美子先生に、その最終号に、それに使った写真を添えてプレゼントしました。ニコニコしながら私の拙い文章を読んでくれた先生の笑顔は今もよく思い出します。

その久美子先生から、突然、「最後の病院を決めてきた」と告げられました。

北大病院に通い、病と闘っているのは勿論知っていました。が、そこまで悪いのか、と驚きました。

久美子先生の、少し寂しいような、それでいてさばさばしたような、その言い方が訝

しくも眩しくもありました。

久美子先生はいつも元気が似合います。私たちも同じように年をとっていったのに、それに気づかず甘えてばかりいました。

ひと月前、「入院した」と聞かされ、翌日駆けつけた私たちは、却っていつもの笑顔に励まされるばかりでした。

「ここでは私が一番偉いの」「みんな私の言うことを聞かなきゃならないの」と言つて「水ちょうだい」、「ベッドを上げて」などと注文……。陽射しの差し込む病室でした。

ですから、「久美子先生の容態がよくない」と聞かされてお見舞いに行つた人から、「心配して行つたけど、案外元気だったよ」という声が返つてくるほどでした。

でも、実際は、ほぼ日を追うごとに辛くなつていたのですね。久美子先生は、その辛さを笑顔に包み、お見舞いに訪れた人を励ましていたのですね。

でも、でもその我慢の苦しさは、夫・古志男先生にぶつつけていたのでした。古志男先生は黙つてそれを受け止めていました。日本共産党町議として活躍する古志男先生を

支え、ともに暮らし、ともに歩んできた二人だけに、それはどれほど辛かつたことでしょうか。

漸く、久美子先生が心おきない穏やかさを取り戻したのは、奈緒美さん、亜由美さん、加奈美さんの最愛の三人の娘さんの看病が始まってからでした。

やがて、「私は幸せ者」、「お父さんごめんさい」、「いい人生だったよ」、とぼつりぼつりと語り出しました。旅立つ二日ほど前にお見舞いに行つた友人たちに、「腰を揉んで」とせがんだりもしました。秤谷カツ子さんが手を握り、田中麻利子さんが腰を撫で、金子弥生さん、藤元篤子さん、岩代恵美さん、笹原民子さんが代わる代わる脚をさすり……。

「ああ気持ちがいい……気持ちがいい」、と安心し切つた様子でした。

三人の娘さんに加え、何をしても可愛い柊哉くん、柚那さん、あかりさん、さやかさんの四人のお孫さんに囲まれ、本当に幸せそうでした。

久美子先生、古志男先生、三人の娘さん、四人のお孫さん、そして三人の婿殿がここに

にいます。弟の一彦先生ご夫妻はじめたくさんのご親戚の皆さんもここにいます。久遠小学校勤務時代からの友人、伊東先生、大石先生、高橋先生ご夫妻、馬場先生ご夫妻、長いおつきあいの庄山さんご夫妻、山本さんご夫妻、三上さんご夫妻、杉山さんご夫妻……隣組の野澤さんご夫妻、お世話下さつた町内会の鎌田さんはじめ木間内の皆さん……お名前を挙げていくと町中の方々を挙げなければならぬいほど、私たちのみんなが久美子先生の飾らないお人柄と大らかな笑顔を慕っています。

「ちよつこし、今どこ?」、という久美子先生の声が、また電話の向こうから聞こえてくるような気がします。

そんな時、久美子先生は知つての通り、少し気障な私は、大好きな立原道造の詩を読んであげたいと思います。

唄

立原道造

林檎の木に 赤い実の

熟れてゐるのを 私は見た

高い高い空に 鷹が飛び

響がながれているのを 私

は見た

太陽が 樹木のあひだを透らして
そして 林の中で 一日中

私は うたをうたつてみた

《ああ 私は生きられる

私は生きられる

私は よい時をえらんだ》

そう、久美子先生、ここに

いますよ。何よりも先生は私たちの胸の中に生きています。はありませんか!

久美子先生、またお会いしましょう!

2016.9.27

元同僚

元厚沢部町立鶴小学校校長

笹原 克哉



道退教創立20周年祝賀会にて・「舞」も

2016年健康友の会&道退教松山支部交流パーク例会ハンデ戦の成績(教職関係者のみ)
10月29日乙部・ゆりの里

順位	氏名	当日スコア	プラスハンデ
3	田中正邦	106	122.2
5	金森 晃	106	124.1
6	青木義則	108	124.6
11	青木勝子	125	129.4
12	藤元武彦	139	129.7
14	金子宇彦	118	130.4
15	大内俊彦	117	131.7
16	大塚 勲	117	133.2
18	小滝哲弥	135	135.0
23	高橋正人	138	140.2
24	金子弥生	157	142.5
25	高橋和子	165	147.0
26	田中麻利子	171	157.0

8月5日江差・水堀

順位	氏名	当日スコア	プラスハンデ
1	高橋正人	109	91.0
3	小滝哲弥	112	105.6
5	金子弥生	132	107.0
7	大内俊彦	102	110.7
9	青木勝子	113	112.4
13	大塚 勲	108	115.3
14	金子宇彦	108	115.7
17	薄木完治	103	119.5
18	青木義則	107	119.9
19	金森 晃	107	121.2
21	高橋和子	151	129.9
22	山田塚子	126	135.2

6月17日江差町PG場

順位	氏名	スコア	プラスハンデ
1	青木義則	118	127.8
2	田中正邦	123	133.9
3	高橋正人	159	134
4	大内俊彦	128	135.1
5	金子宇彦	125	135.2
7	大塚 勲	129	142.3
14	青木勝子	151	151.2
15	藤元武彦	152	151.3
16	田中麻利子	161	158.7
17	小滝哲弥	152	149.1
19	金子弥生	185	160
21	高橋和子	200	175

10月1日八雲・熊石PG場

順位	氏名	スコア	プラスハンデ
2	田中正邦	109	122.0
7	福原賢規	117	129.0
9	金子宇彦	117	129.6
11	大内俊彦	115	130.7
12	金森 晃	114	131.6
13	田村一正	114	132.0
17	薄木完治	121	137.5
21	金子弥生	154	143.6

7月9日厚沢部PG場

順位	氏名	スコア	プラスハンデ
2	青木勝子	125	116.6
6	高橋正人	147	122.0
8	田中麻利子	137	123.0
9	大内俊彦	119	123.9
10	青木義則	114	124.7
11	小滝哲弥	136	125.7
14	高橋和子	154	129.0
16	大塚 勲	123	130.3
17	田中正邦	126	134.9
18	薄木完治	116	136.7
21	金森 晃	120	139.6

5月28日上ノ国・天の川

順位	氏名	スコア	プラスハンデ
1	金森 晃	110	131.7
10	金子宇彦	125	140.7
11	田中麻利子	139	142.4
13	青木義則	126	141.8
14	大内俊彦	129	141.9
15	田中正邦	125	142.3
16	藤元武彦	138	142.4
17	青木勝子	137	142.6
20	藤元篤子	169	146.6
21	金子弥生	172	148.5

9月10日江差・運動公園

順位	氏名	スコア	プラスハンデ
2	田中正邦	112	120.9
3	大塚 勲	110	124.0
11	青木義則	112	129.0
12	大内俊彦	114	131.1
13	金子宇彦	118	132.2
14	金子弥生	144	132.8
18	青木勝子	134	142.2
20	小滝哲弥	139	145.1
21	藤元武彦	160	150.7

4月22日乙部・ゆりの里

順位	氏名	スコア	プラスハンデ	順位	氏名	スコア	プラスハンデ
1	金子宇彦	111	121.4	11	田中正邦	112	126.6
3	田中麻利子	126	123.4	13	青木義則	114	127.7
4	金森 晃	106	123.5	17	大内俊彦	119	131.8
5	青木勝子	123	125.2	20	金子弥生	156	133.0
7	薄木完治	108	125.5	22	小滝哲弥	137	136.1
9	福元厚子	114	126.0				

今シーズンの成長株
驚異的な伸び・田中正邦さん

教育関係者の中では、今シーズンに大きく伸びたのが正邦さん。後半はハンデをものともせず、9月2位、10月2位・3位とコンスタントに力を伸ばしている。また、高橋正人・和子夫妻もこっそり二人で練習を重ねており、金子弥生さん精勤や女性会員のパワーある参加などから、来シーズンの伸びが期待される。また、田村さん、大内さん、大塚さん、薄木さん、小滝さん、金子宇彦などのベテランも、追いかけて来る若手？に負けぬようオフのトレーニングも重ねてもらい、奮起を期待したいものである。